

「子宮頸がんワクチン」という名を獲得した**背後に**

平成 27 年度・**秋学期**

発信力を磨いて社会を変える ～現場から・当事者から、その物語～

**子宮頸がんワクチン禍**

**松藤美香さん 池田利恵さん 保岡興治さん**

---

**不合理を許さない。**

HPVワクチン薬害で苦しむ娘さんに寄り添いながら、国や製薬会社と対峙している松藤美香さん。主婦の視点・感覚から、HPVワクチンの危うさに気づいた池田利恵さん。目の前のHPVワクチン禍を見過ごすことができず、立ち上がった保岡興治さん。それぞれの立場から、HPVワクチンの理不尽に対する心の叫びをうかがうことができた。

HPVワクチンは、製薬メーカーの画策によって、「子宮頸がんワクチン」と呼ばれることに成功した。アルファベットやカタカナでは何のワクチンか分からないと説明したのか、前がん病変に対して得られた効果でこじつけをしたのかは分からない。ともかく、「子宮頸がんワクチン」という、実態が伴わない名前を獲得した。その段階で、マーケティング目標の半分以上を達成したのではないだろうか。名は体を表す。人の原理・原則を巧みに利用した計略と言っている。

HPVワクチンと関わりを持ったのは、HPVワクチンが定期接種になる前のこと。仕事で、公費助成推進キャンペーンに関わることになった。当時、国立がん研究センター中央病院長だった土屋了介さんが発起人の一人として音頭をとり、女優の仁科亜希子さんが子宮頸がん経験者として前面に立って公費助成を訴えていた。私は、キャンペーンの出発点となった記者会見の企画・実施を手伝った。

子宮頸がんの死亡率低減は証明されていなかった。ワクチンの効果持続期間についても、怪しいところがあった。国立がん研究センターの統計が専門の研究者に聞いたところ、特段のハイリスク要因がなければ、「積極的に接種する必要はないのではないか」との意見だった。一方、既にHPVワクチン接種が始まっていた各国では、重篤な副作用報告はないとの説明だった。害悪が少ないのであれば、やらないよりやったほうがいいのではないかと考えてしまった。「ワクチンは正義」という、これまでに刷り込まれてきた無意識が働いたのかもしれない。この後、HPVワクチンは製薬メーカーの思惑通り、定期接種になった。記者会見を手伝ってしまったことが、反省と後悔の一つ目である。

2011年、私は中学2年生だった娘にHPVワクチンの接種を勧めた。区の公費負担による接種だった。1回目の接種は9月、2回目は10月、3回目は2012年3月だった。ちょうど1年後には高校受験という時期で、いま振り返っても背筋が凍る。今のところ娘に変調はない。横浜市立大学医学部名誉教授の横田俊平さんに伺ったところ、おそらくこれから娘に副作用が出てくる可能性は低いとのご意見だったが、娘が体調不良を訴えるたび、私はHPVワクチンとの関係を一人で心配している。重篤な不調は現れないにしても、アジュバントが入った劇薬を娘の体に入れてしまったことについて、娘に本当に申し訳なく思っている。これが、私の反省と後悔の二つ目である。

HPVワクチン禍で一番問題なのは、  
推進派の論理展開に、エビデンス・ベースド・メディスン(EBM)の欠落があること。  
反対派に対して、「感情的だ」、「非科学的だ」と言う人々もいるが、  
論理矛盾があるのは賛成派の方だ。

その矛盾を埋めているのが、もう一つのEBM、エコノミック・ベースド・メディスン。  
これは、ゆきさんに教えていただいたキーワードだが、まさに言い得て妙。  
2つのEBMを使い分ける賛成派。  
それを自分の大事な人に、どのような顔をして、どのように説明するのか。  
そういう人たちに限って、実は自分の娘や孫娘に、HPVワクチンを接種させていないものだ。  
HPVワクチン禍は、社会の構造的な問題にも通じる不合理に満ちた問題である。

以上のような反省と後悔と胸に刻み、  
志を果たしていきたいと思う。

### 美香さん。

お嬢さんと娘は、ほぼ同じ年齢で、同じような時期にHPVワクチンを接種しています。  
薬害の有無は、紙一重。全く他人事には思えません。  
ただ救いがあるとすれば、お嬢さんに快方の兆しが見えているということでしょうか。  
その日が一日も早く来ることを、心からお祈りしています。

### 利恵さん。

利恵さんの根本に、真の意味でのボランティア精神、  
“放ってはおけない”という熱い志を感じました。  
「私のこの活動の一番の被害者は、主人です」と言い切った利恵さん。  
とても男前でした。とても素敵でした。  
これからも、HPVワクチン禍で苦しんでいる人たちのために頑張ってください。

### 興治さん。

当選13回、法務大臣を2回も務められた興治さんが、  
娘が通う高校の大先輩であることを知り、とても感激しています。  
HPVワクチン禍や医療事故調の問題では、  
既に精力的に動いていらっしゃることをうかがい、武者震いをいたしました。  
ゆきさんには、「久しぶりに男惚れをしました」と申し上げたところです。  
これからも国民のため、声を出したくても出せない人のため、  
お力を尽くしていただくことを、心からお願い申し上げます。  
(了)